

竹物
取此
編之
家
始

人
所
共
知
豐
盛
國
治
壽

~ 13
3690
13



京山人作

外題曲女團扇



河川園百景



竹取物語十二編

京山人作

外題曲五團五



門へ1307
3690
巻 13

源氏物語

源氏物語の巻の枝とす。一へその下落の抄とす。一後者の筆

はるるのりてありて天保八年酉の春ありし小ホとの取とるる筆

一ありてありとて梅名の匂ひつとす。一の室小より入松名のとら

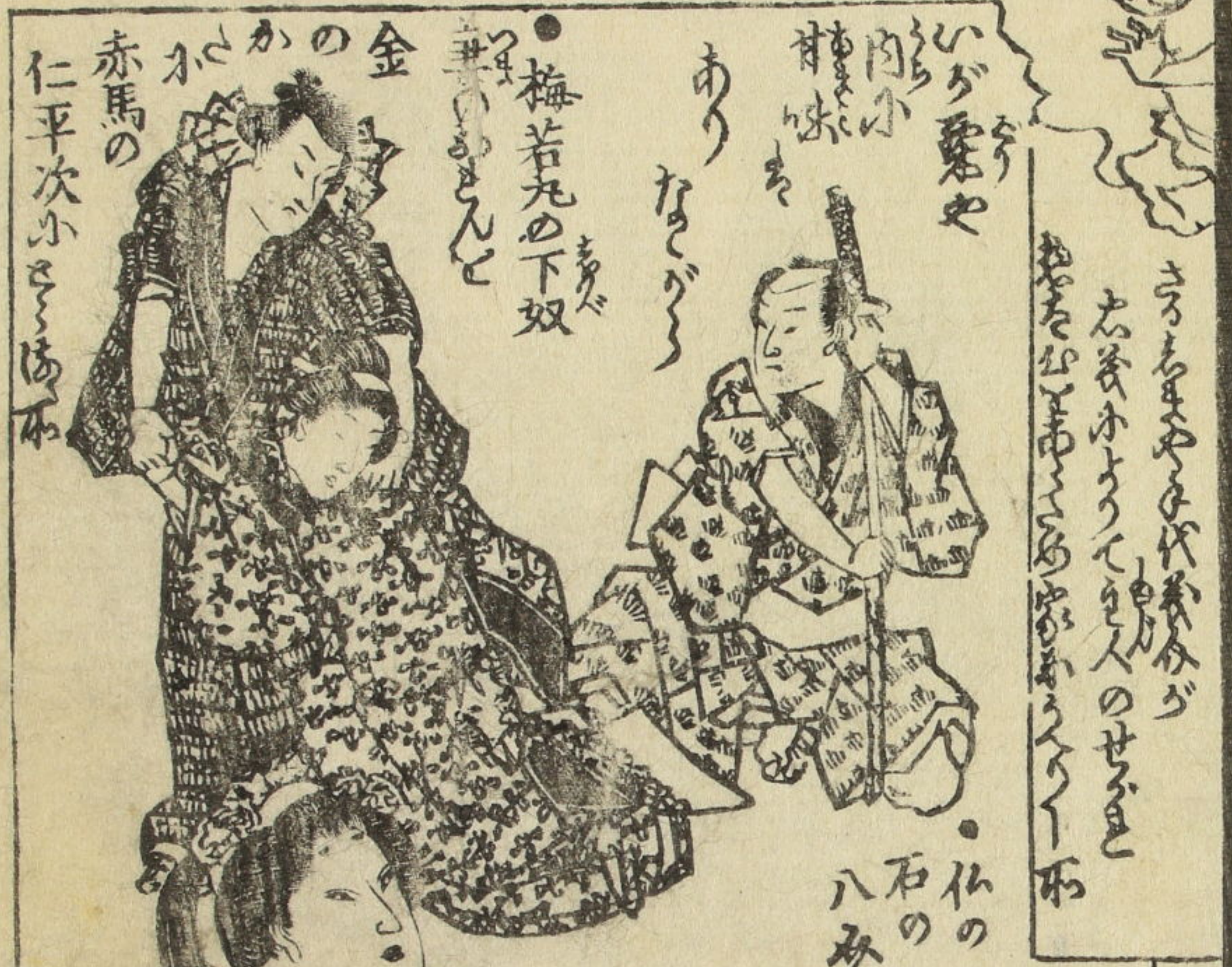
十二年の月かざり小葉下の梓ちのまきとありとありとありとあり

まこと十二編とてとてまきより筆屋がありて人かうちらうの筆

おかくより入物とむじうのありてとらとすてありてとす。一より

そこの日限もせうはめらまきとありてとらとす。一より
更衣の日やうく筆と拭ひ小けり

嘉永三年 初夏稿本同初冬 上梓発販 山東菴



梅若丸の下奴
 金の
 赤馬の
 仁平次小
 いが
 梅若丸の下奴
 梅若丸の下奴
 梅若丸の下奴
 梅若丸の下奴
 梅若丸の下奴



丹後の
 大内の
 丹後の
 丹後の
 丹後の
 丹後の



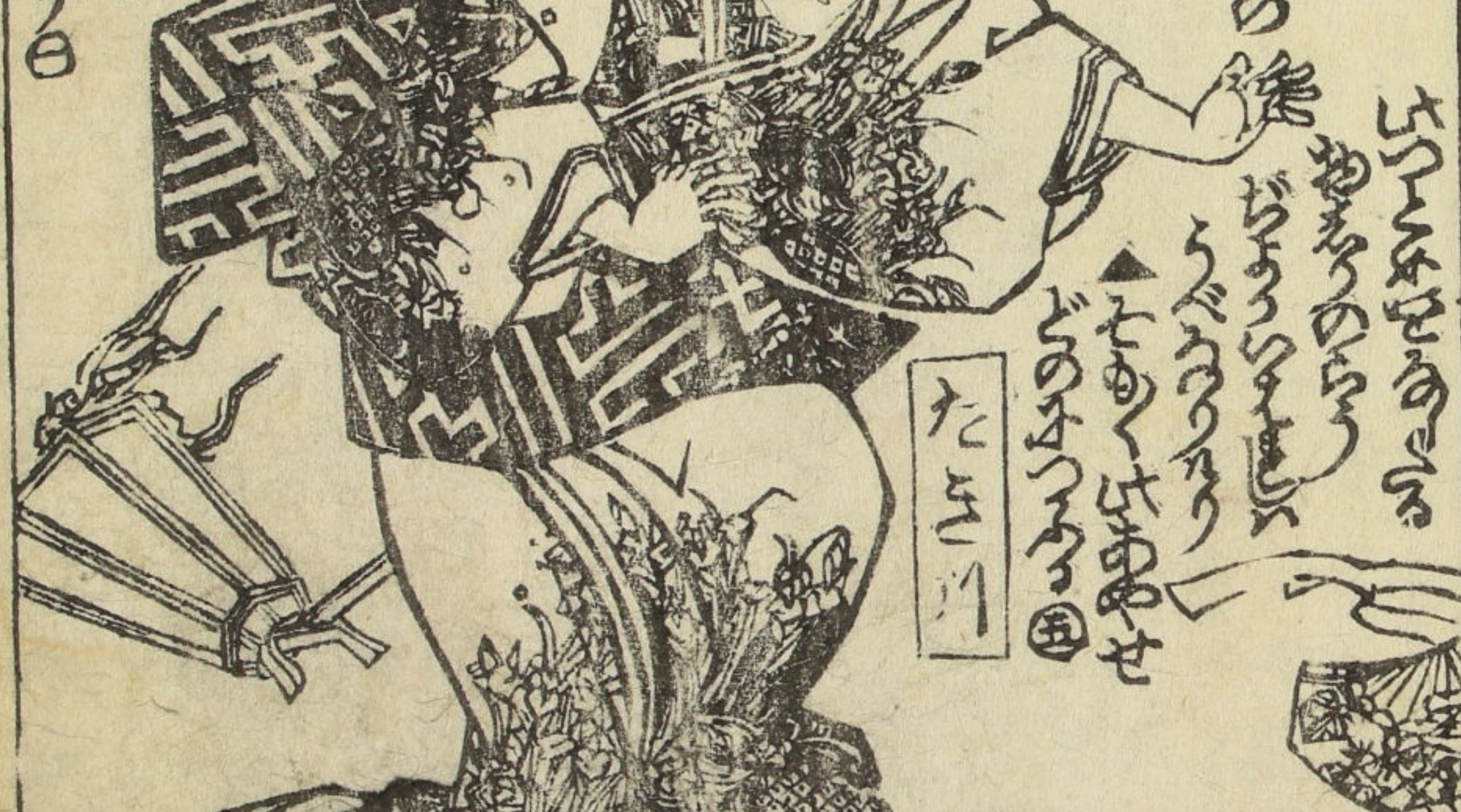
京都の
 依鳥屋後家
 お松
 お松が
 子
 物入
 京都の
 少将
 依鳥屋後家
 依鳥屋後家
 依鳥屋後家
 依鳥屋後家
 依鳥屋後家

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿



㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿



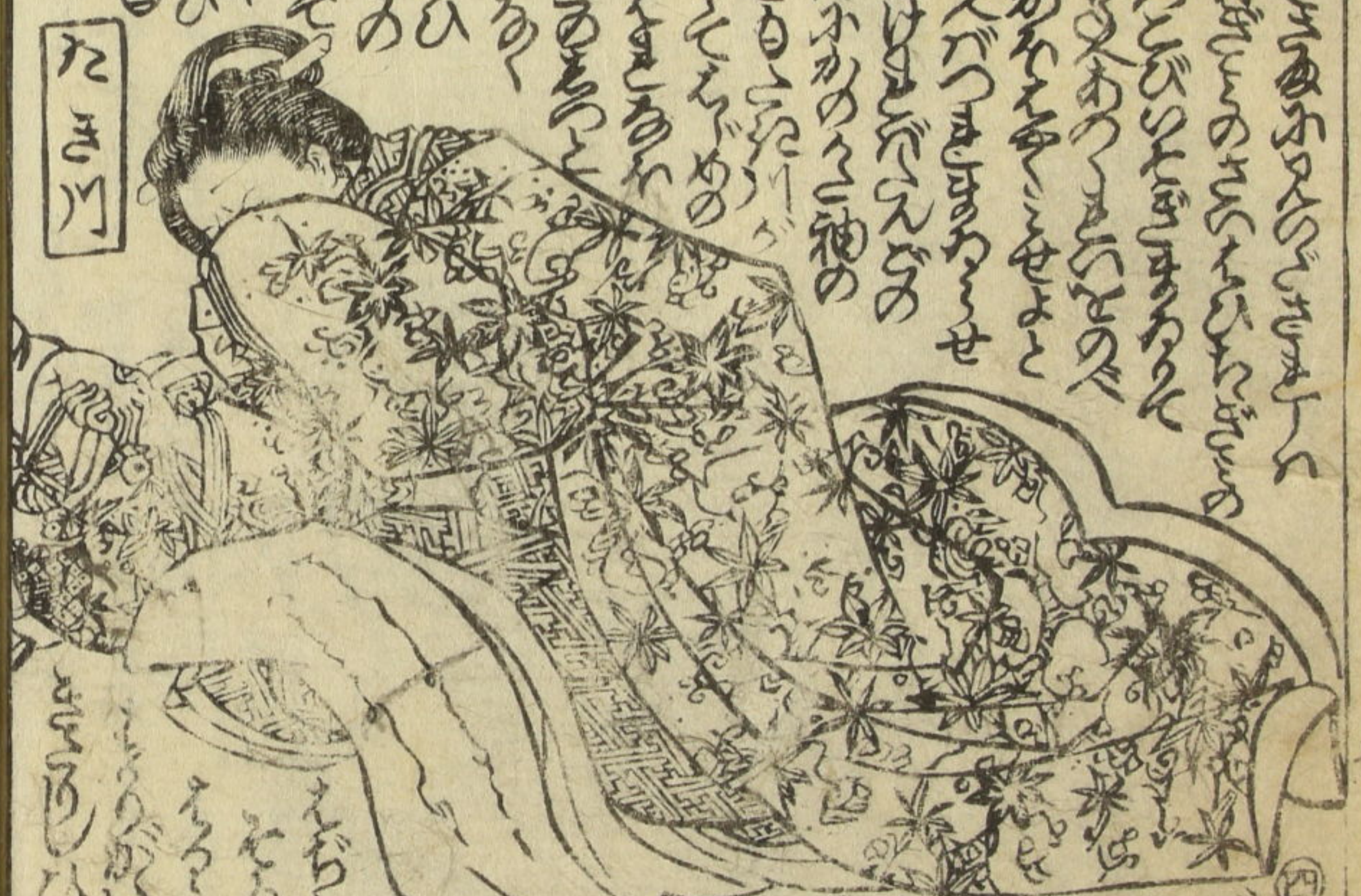
㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

五三三三三

Handwritten text in the top right section of the right page, consisting of approximately 15 vertical columns of cursive script.

Handwritten text in the middle right section of the right page, consisting of approximately 15 vertical columns of cursive script.

Handwritten text in the bottom right section of the right page, consisting of approximately 15 vertical columns of cursive script.



Handwritten text in the top left section of the left page, consisting of approximately 15 vertical columns of cursive script.

Handwritten text in the middle left section of the left page, consisting of approximately 15 vertical columns of cursive script.

Handwritten text in the bottom left section of the left page, consisting of approximately 15 vertical columns of cursive script.



三十三編

京山作



國輝画



京山作の世に今や
 國輝画の世に今や
 花の世に今や
 鳥の世に今や
 月夜の世に今や
 春の世に今や
 秋の世に今や
 雪の世に今や
 雨の世に今や
 風の世に今や
 雲の世に今や
 霞の世に今や
 霧の世に今や
 煙の世に今や
 塵の世に今や
 土の世に今や
 石の世に今や
 木の世に今や
 草の世に今や
 虫の世に今や
 魚の世に今や
 鳥の世に今や
 獣の世に今や
 人の世に今や

山崎
十三
卷

所
物
利

十三
分

中
の
下

五
松
素

棒



竹取物語十三編下巻

なる竹の根を掘りおろし
 こゝろをいふもよもや
 ろのりしむらさき
 ちの申おありし
 川かあひて
 今母の中
 娘おびと
 ちの申おありし
 川かあひて
 今母の中
 娘おびと



④ おのり
 ⑤ ちの申
 ⑥ 川かあひて

⑦ なる竹の根を掘りおろし
 こゝろをいふもよもや

⑧ 十六人おまはる
 ちの申おありし

⑨ 今母の中
 娘おびと
 ちの申おありし
 川かあひて
 今母の中
 娘おびと

竹取物語十三編下巻

三郎は子に忠告するありては
 下へ三郎が目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた



三郎の妻

三郎の妻

三郎の妻

三郎の妻

三郎は子に忠告するありては
 下へ三郎が目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた
 ひと上へ三郎は目よりあつた



三郎の妻

九段

梅若乃喜ぶるむきの
まきと川のちりか
さあさいとかごと
ちりか物太の
ちりか物太の

ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の



惣太

④ あつちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の

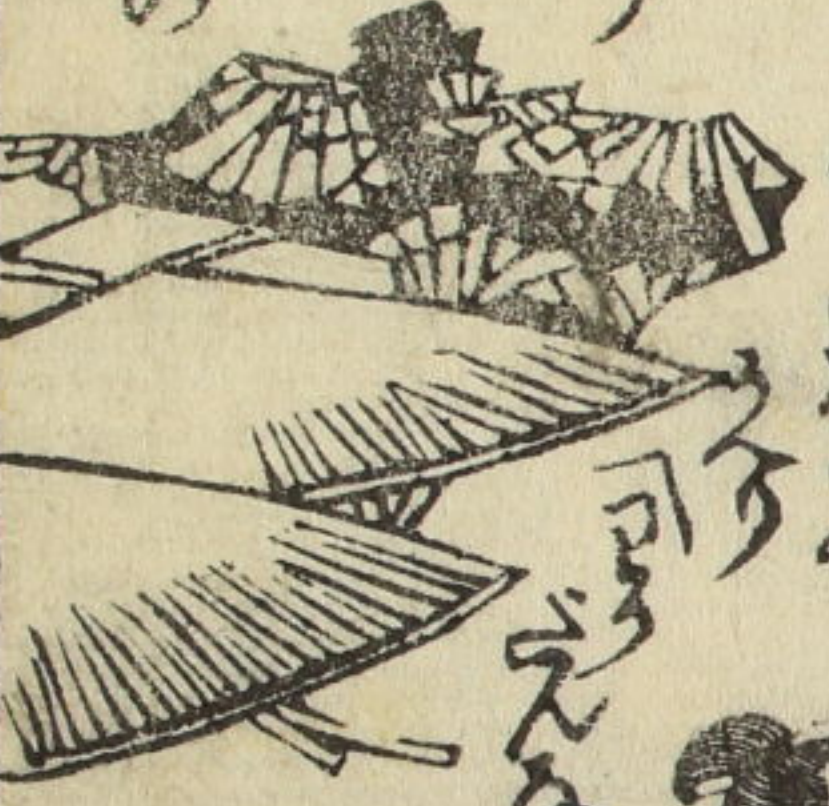
⑤

ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の

日母おん

小安

ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の

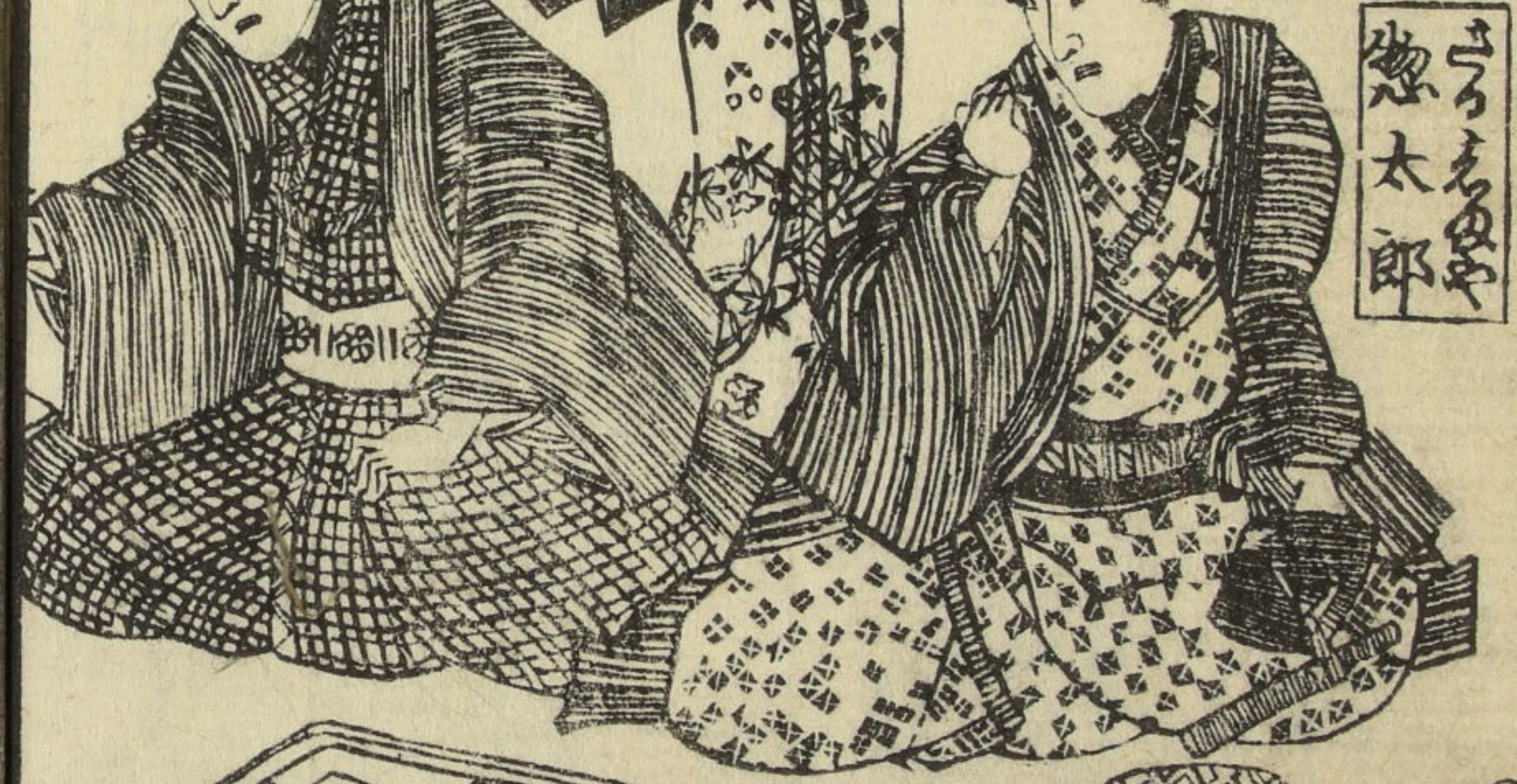


小安が
えいお竹

ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の
ちりか物太の

かつては五年に一度の参りであったが
今は一年に一度の参りになりし母の
いふ事には聞かぬと云ふ事もある
と云ふ事もあると云ふ事もある
と云ふ事もあると云ふ事もある

あつた母おやけつ
いとこもあつた
大坂の参りもあつた



惣太郎

あつた母おやけつ
いとこもあつた
大坂の参りもあつた

あつた母おやけつ
いとこもあつた
大坂の参りもあつた

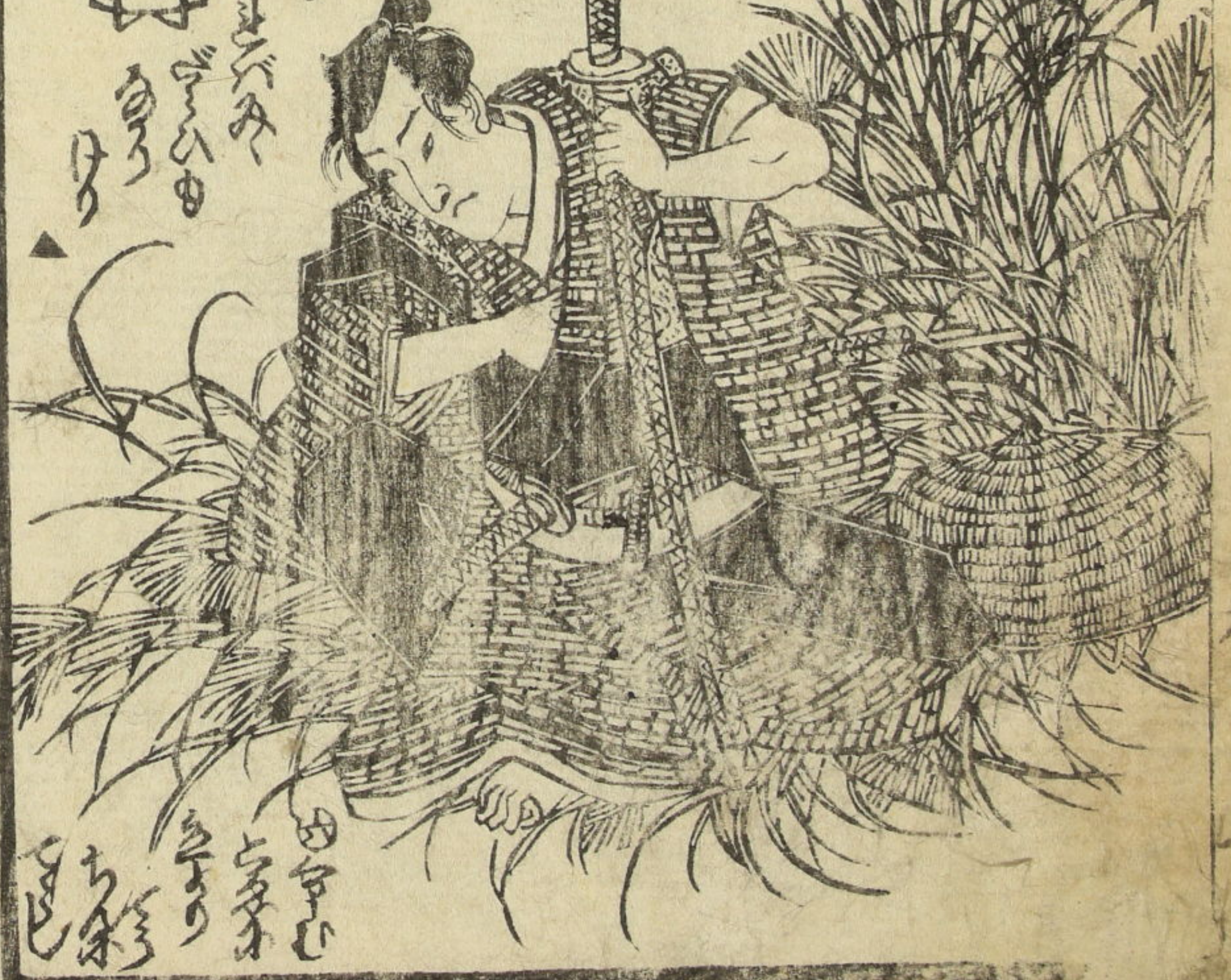
あつた母おやけつ
いとこもあつた
大坂の参りもあつた

平次が... 仁平め...
 仁平め...
 仁平め...
 仁平め...
 仁平め...

十一段

かくて... 山中熊五郎...
 かくて...
 かくて...

山中熊五郎



由... ち...
 由...
 ち...

かくて... 平次...
 かくて...
 かくて...



十三段

かくて... 平次...
 かくて...
 かくて...

